

本巢市 真正・糸貫地域版 地震防災マップ

地震防災マップの目的

平成23年3月11日に「東北地方太平洋沖地震」が発生し、東北地方の太平洋側に大きな被害をもたらしました。この地方においても、南海トラフを震源とする地震が今後30年以内に70%程度の確率で発生すると予想されているほか、震名・震名・四日市断層をはじめとした活断層も多く存在することから、いつ大きな地震が発生してもおかしくない状況となっています。本巢市では、このような地震が発生した場合に備え、日頃から地震に対する備えを心がけていたくとも、地震による被害を最小限に抑えることを目的として、「地震防災マップ」を作成しました。「地震防災マップ」は、この地方で発生する可能性のある地震による被害を予測し、その被害の発生範囲及び被害程度の情報を地図に表示するとともに、地震に関する知識や防災対策などを記載したものです。もしもの地震災害に備え、この「地震防災マップ」を活用し、自宅における地震対策、避難する場所や避難時の心構え、日頃から家族や地域の皆さんで話し合います。

問い合わせ先
本巢市役所総務課 〒501-1292 岐阜県本巢市文殊324
TEL.0581-34-5020 FAX.0581-34-5034

地震防災マップの利用方法

地震などが起きてあてないよう、家族会議を開き、日頃から防災対策について次のようなことを話し合っておきましょう。

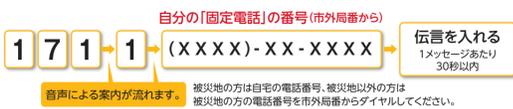
- 災害から身を守る方法
- 家族の集合場所、緊急連絡先、連絡方法
- 非常持ち出し品と非常用備蓄品の点検・置き場所の確認
- 自宅と避難場所の位置
- 避難経路の確認

わが家の防災メモ

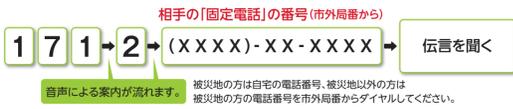
避難所	災害時避難場所	
避難所	家族が離れ離れた時の集合場所	
家族の連絡先	氏名	電話番号
	住所	

災害用伝言ダイヤル 171

録音方法



再生方法



※利用可能な端末はNTTの一般電話、公衆電話からご利用できます。携帯電話PHSからのご利用については、お客様がご契約されている各通信事業者へご確認ください。

携帯電話会社における緊急伝言サービスについて

携帯電話会社と各自に災害用伝言サービスを行っています。詳細に関してはご利用の携帯電話会社までお問い合わせください。

わが家の防災対策

- 屋根の点検**: アンテナの固定を確認する。屋根瓦のずれ、ひび割れなどがなければ確認する。
- 消火のための備え**: 消火器の常備や浴槽に水を張っておくなど、消火の備えをしておく。
- ブロック塀や石垣の補強**: ブロック塀や石垣を高検しておく。欠陥があるときは歩行者がけがをしないよう、補強する。
- 家具の配置**: 転倒して人に当たる場所、出入口を塞ぐ場所、方向に家具を置かない。
- ガラスの保護**: ガラスによるけがを防ぐため、飛散防止フィルムを貼る、カーテンを閉める。
- ガスボンベの固定**: ガスボンベは鎖でしっかり固定する。
- 暖房器具の設置**: 暖房器具は、燃えやすいものから離し、人の動きの妨げにならない位置に置く。
- 備蓄品の置き場所**: すぐに取り出せるようわかりやすい場所に置く。
- 家具の転倒防止**: 地震によるけがを防止するため、家具の転倒や落下物の防止対策がたいへん重要です。
- L字金具**: L字型の金具で、家具の天板部と壁の柱や欄干を固定する。
- つっぱり棒**: 天井と家具の天板との間に、天井に十分な強度が必要。家具の両端の間に近い位置に設置する。
- 粘着マット**: テレビやパソコンなどは粘着マットを敷いて固定する。
- ベルト・チェーンタイプ**: ベルトやチェーン状の器具で家具の前面下部に挟み込み、家具を壁にもたせかけて転倒を防止する。
- 家具転倒防止板**: 厚さ5mm程度の板状の器具を家具の前面下部に挟み込み、家具を壁にもたせかけて転倒を防止する。
- 開き戸固定器具**: 食器棚などの開き戸に掛ける金具やチェーンなどを取り付けて開き戸を固定し、自身の飛び出しを防ぐ。

避難情報の周知

避難情報は、次のような方法で発表されます。

- 防災行政無線
- 広報車
- 本巢市ホームページ
- 災害時の緊急速報メール
- 民間の放送

大規模な地震が起こった場合、市から様々な方法で情報を発信します。また、テレビ、ラジオ、インターネットから「今何が起こって、自分ができるような状況に置かれているのか」という情報を集め、冷静に次の行動に移すことが大切です。

※災害時の緊急速報メールサービスは登録が必要です。

※NTTコムサービスセンター: <http://www.nttdocomo.co.jp/service/safety/aremail/index.html>

※ソフトバンクモバイル: http://www.softbank.jp/mobile/service/urgent_news/

※KDDI: <http://www.kddi.com/business/mobile/solution/kinkyu-sokuho/>

耐震診断・耐震改修

平成7年の阪神・淡路大震災では、亡くなった方の約8割が建物の倒壊等による圧死や窒息死でした。そのため、本巢市では、地震に対する建物の安全性の向上を図り、地震に強いまちづくりを進めるため、次の事業を実施しています。

耐震診断

木造住宅の耐震診断

岐阜県木造住宅耐震相談士が耐震診断を実施し、診断に基づく概算の耐震補強工事に関する情報提供等を無料で行います。

- 無料耐震診断を受けることができる方
- 昭和56年5月31日以前に着工された木造の一戸建て住宅を所有する方

木造住宅以外の耐震診断

木造住宅以外の建築物の耐震診断にかかる費用の一部を予算の範囲内で補助します。

- 耐震診断の補助を受けることができる方
- 昭和56年5月31日以前に着工された木造住宅以外を所有する方
- 補助金額 耐震診断費用の2/3以内(費用により限度額があります。)

耐震改修

木造住宅の耐震補強工事

木造住宅の耐震補強工事を実施するにあたり、予算の範囲内において費用の一部を補助します。(限度を超える費用については自己負担となります。)

- 対象となる耐震補強工事
- 昭和56年5月31日以前に着工された木造の一戸建て住宅であること
- 岐阜県木造住宅耐震相談士により設計及び工事監理されるものであること
- その他、本巢市建築業等耐震化促進事業補助金交付要綱によるものであること

耐震改修の補助を受けることができる方

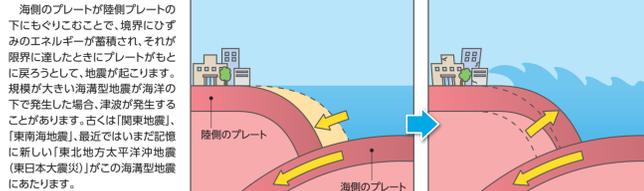
- 対象となる住宅を所有する方
- 補助金額 耐震改修費用の7/10以内(費用により限度額があります。)

● 申し込み方法など詳しい内容につきましては、本巢市都市計画課(糸貫分庁舎) ☎058-323-7758 までお問い合わせください。

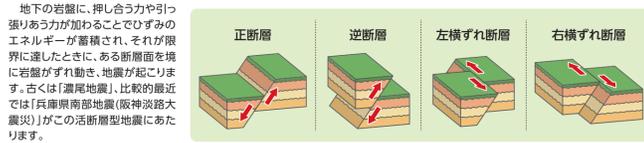
地震発生メカニズム

日本周辺の地震には、海溝型地震と活断層型地震の2種類があり、これらの地震は発生メカニズムが異なります。

海溝型地震



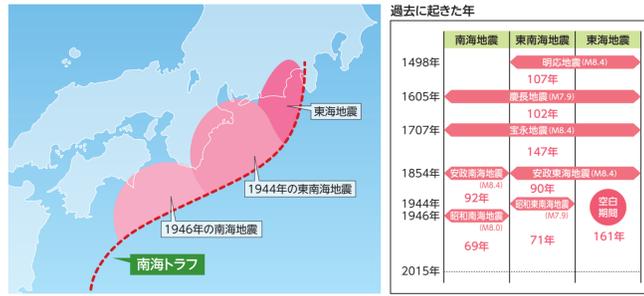
活断層型地震



南海トラフを震源とした巨大地震

南海トラフの巨大地震

南海トラフでは、過去1400年間で、約100~200年の間隔で蓄積されたひずみを開放する大地震が発生しています。直近の昭和東南海地震および昭和南海地震が起きてから、すでに70年近く経過しています。最近では、南海トラフをこれまでのような東海・東南海・南海領域という区分をせず、南海トラフ全体を1つの領域として考えるようになってきています。



災害の備え

非常時持ち出し品	非常用備蓄品
生活用品 <ul style="list-style-type: none"> タオル 洗面用具 衣類・下着類 給水用ポリタンク はさみ ビニール袋 ナイフ 軍手 底の厚い靴 生理用品 おむつ 哺乳びん 貴重品 <ul style="list-style-type: none"> 現金(10円玉) 公衆電話を利用できるように 運転免許証 住民票の写し 印鑑・通帳 権利証書 健康保険証 母子手帳 障害者手帳 	生活用品 <ul style="list-style-type: none"> 水のいらないシャンプー 毛布・寝袋 新聞紙 ティッシュペーパー トイレットペーパー 卓上コンロ ガスボンベ ローソク 給水用ポリタンク 非常食関係 <ul style="list-style-type: none"> 飲料水(1日1人3リットル) かんぱん レトルト食品 インスタントラーメン 粉ミルク 缶詰 缶切り 紙皿などの食器類 備品関係 <ul style="list-style-type: none"> ヘルメット・防災ずきん ホイッスル(笛) 携帯ラジオ 使い捨てカイロ ライター・マッチ 雨具 乾電池 包装用ラップ

緊急地震速報

緊急地震速報は、地震の発生直後に、各地での強い揺れの到達時刻や震度を予測し、知らせる情報です。テレビやラジオの放送やメールで知られます。

強い揺れの前に自らの身を止めます。地震の際は、P波と呼ばれる小さな揺れのあと、S波と呼ばれる大きな揺れが来ます。緊急地震速報は、このP波をとらえ、地震の規模や震源地を予測し、大きな揺れのS波が来る数秒前から数十秒前から発表されるものです。震度4以上の揺れがあると予測された地域が気象庁から発表されます。

地震発生時の行動

地震が起きても、あわてず冷静に行動することで、けがや火災など二次災害から身を守ることができ。普段からどのような行動をとったらよいか考えておきましょう。

地震発生!!

あわてない

身を守る

- 丈夫な机の下に入る
- 倒れてくる家具や落下物に注意する
- 産婦人科などで頭を守る

お店や乗り物の中にいる場合

- 係員、乗務員の指示に従う
- つり革やすずりしかりつかまえる
- 避難時にエレベーターを使用しない
- エレベーターの中にいたら最寄の階で押し止めてすぐに降りる
- 天井荷物棚からの落下物に注意する

運転中は

- 車を止めたまま道路の端に車を止めて避難する

野外では

- ブロック塀や門柱の倒壊に注意する
- ガラスや看板の落下、切れて垂れ下がった電線に注意する

避難準備と周囲の確認

避難の準備

- 非常持ち出し品を準備する
- 家屋倒壊のおそれがある場合は避難する

外へ逃げるときは慌てずに

- 外へ逃げるときは、ガラスや瓦などの落下に注意し、落ちないように行動する
- 家を出るときはブレーカーを切り、ガスの元栓を閉めるなど、火災防止に努める
- ブロック塀や柱などが倒れる

火事を見つけたら

- 大声で知らせる
- 協力して消火活動を行う

近所の人への安否確認

- 家族や高齢者、乳幼児、障がいのある方など、周囲の安否確認を行う

負傷者への応急手当

- 協力して救護活動を行う

建物に閉じ込められた人の救助

- 協力して救助活動を行う

家族の安全と初動処置

スリッパ・靴等を履く

- 家の中でもガラス片などが飛ぶことがある

出口を確保する

- 地震のときは、ドアや窓が変形して開かなくなることがある

家族の安全確認

- 大声で家族の安否の確認を行う

すばやく火の始末

- ガスやストーブの火を消す
- 火災を消火器等で消す

土砂災害等にご注意

- 山間部の地域で揺れを感じたら、すぐに避難する

テレビ・ラジオの災害情報を確認

- テレビ・ラジオで正しい情報入手する

閉じ込められたら

- 大声を出して外部に知らせる
- 手元のものを利用して、大きな音で外部に知らせる
- 音を聞いて知らせる

状況に応じて冷静に判断

自宅に留まる場合

- 家の被害を点検する
- 定元のブレーカーを切る
- 非常持ち出し品を持つ
- 行き先メモを玄関付近の目に付く場所に残す
- 煙やオートバイは、後やうに徒歩で避難する
- なるべく危険な場所を避けて大きな通りを選んで避難する

避難場所へ行く場合

- ガスの元栓を閉める
- プレーカーを切る
- 非常持ち出し品を持つ
- 避難所は被災者が生活する場所であり、避難者による自主運営が基本です。少しの間も確保できない状況になることもあります。皆で協力し、助け合いの心で避難生活を送りましょう。

半日〜3日後

備蓄品で生活する

- 数日はライフラインが停止することがあるのを、最低でも3日分の食料・飲料水などを準備しておきましょう。

避難所での生活

- ルールに従い運営に協力する
- 避難所は被災者が生活する場所であり、避難者による自主運営が基本です。少しの間も確保できない状況になることもあります。皆で協力し、助け合いの心で避難生活を送りましょう。

主な活断層の概略位置図

主要活断層名	断層を構成する主要断層(概)	マフィニコード	発生頻度(300年内)
● 濃尾断層帯	濃尾断層(北西部)	6.8 程度	ほぼ0%
	濃尾断層(南東部)	7.0 程度	不明
	主部(根尾谷断層帯)	7.3 程度	ほぼ0%
	主部(梅原断層帯)	7.4 程度	ほぼ0%
	主部(三田河断層帯)	7.0 程度	不明
	横巻川断層帯	7.1 程度	不明
	武蔵川断層帯	7.3 程度	不明
● 震名・震名・四日市断層帯	国府断層帯	8.0 程度	ほぼ0%~0.7%
● 高山-大原断層帯	高山断層帯	7.2 程度	0%~5%
	高山断層帯	7.6 程度	0.7%
	猪之鼻断層帯	7.1 程度	不明
● 阿寺断層帯	主部(北部)	6.9 程度	6%~11%
	主部(南部)	7.8 程度	ほぼ0%
	佐見断層帯	7.2 程度	不明
	白川断層帯	7.3 程度	不明
● 長良川上流断層帯	長良川上流断層帯	7.3 程度	不明

震度階級表

震度4	震度5弱	震度5強
<p>かなたの恐怖感があり、一部の人は、身の安全を思うとすると、寝ている人のほとんどが目を見ます。</p>	<p>多くの人が、身の安全を思うとすると、一部の人は、行動に支障を感じます。</p>	<p>物につかまらないと歩くことが難しい。棚にある食器類、書籍の本の多くが落ちる。固定していない家具が倒れることがある。</p>
震度6弱	震度6強	震度7
<p>立てていることが困難になる。耐震性の低い住宅では、瓦が落下したり、建物のがたがたすることがある。倒れるものもある。</p>	<p>立てていることができます。はわないと動くことができない。耐震性の低い住宅では、傾くものや、倒れるものも多くなります。</p>	<p>耐震性の低い住宅では、傾くものや、倒れるものが多い。耐震性の高い住宅でもまれに傾くことがある。</p>